

日韓文化交流基金NEWS

Contents

- 1-2 理事長講演会
日韓国交正常化50周年記念講演会
- 3-4 青少年事業
鳥取敬愛高等学校での高校生交流
～韓国青年訪日研修団を迎えて～
日本大学生訪韓研修団参加者が「国際交流に関するエッセイコンテスト」で優秀賞を受賞しました
- 5 フェロー事業
2015年度 訪日・訪韓フェローシップ採用者決定
- 6-7 フェロー研究紹介
日本における「海女観光」の現状
東義大学校ホテル・コンベンション経営学科副教授／
2014年フェロー 劉亨淑
- 8-9 助成事業
2015年度 助成対象事業決定
- 10 助成事業紹介
時空を超えて～釜山芸術団歓迎交流公演
おいた日韓友好祭実行委員会事務局長 是永幹夫
- 11-12 日韓文化交流基金事業報告



公益財団法人 日韓文化交流基金 <http://www.jkcf.or.jp>

〒105-0001 東京都港区虎ノ門5丁目12番1号 虎ノ門ワイコービル4F Tel:03-5472-4323 Fax:03-5472-4326

2015.6.29

NO.

74

日韓国交正常化50周年記念講演会

「若者たちに今、経験して欲しいこと、1+1>2」

日韓文化交流基金理事長、小野正昭が、本年1月にエルエスエイチアジア奨学会*1の「日韓国交正常化50周年記念講演会」で『若者たちに今、経験してほしいこと』をテーマに講演を行いました。当日は日本で日本語を学ぶ語学留学生、研修で韓国から来日した高校生、国際交流に関心のある日本人大学生等300名を対象に、未来の国際交流を担う若者を応援するメッセージを伝えました。

※当日の様子はYouTubeでご覧いただけます。→当基金HP>掲載動画



外交官としての経験を交えながらの講演風景

不確実な時代だからこそ 異文化交流を

今年は第二次世界大戦終結70周年、国際連合設立70周年、また日韓国交正常化50周年という節目の年であります。しかし国際的には、いわゆるイスラミック・ステートをはじめとする過激派テロによる暴力の横行、国内では「ネット右翼」「ヘイトスピーチ」といった現象が問題となっています。私は、このように先の見えない、不確実な時代だからこそ、若い時に異文化に触れ、交流することで、自分と異なる文化を受け入れる姿勢を養うことが求められているのだと考えます。

交流の歴史が絆を強める

私が在勤したメキシコと日本の交流の原点は今から400年前、マニラからアカプルコに向かうメキシコ船が難破し、メキシコ人乗組員317名が千葉県はせくらつねながの御宿の海女に助けられた出来事から始まります。これを契機に支倉常長が太平洋を横断してメキシコへ渡り、各地の人々と交流するなど、日墨友好の絆が強まりました。その長い交流の結果として、メキシコには世界でも珍しい、日本人とメキシコ人の学生が同じキャンパスで学ぶ、日墨学院という学校できました。ここではメキシコ人の長所といわれる、自由、平等、主体性、日本人の長所といわれる、根気、礼儀、規律を互いに学び合っています。もう一つの交流の歴史として、日本とポーランドの例を紹介します。ロシア革命(1917年)による内戦で両親を亡くした765名のポーランドの子供たちを、日本の赤十字社が助けた後に祖国まで送り届けました。その後、75年の時を経て、今度は阪神淡路大震災で親を亡くした日本の震災孤児たちをポーランドの国民がポーランドへ招待するなど交流が続いています。このように、昔からの交流の積み重ねが今日の日・ポ友好の礎となっているのです。

日本と韓国、その交流の原点とは

日韓国交正常化50周年にも関わらず、現在の両国の関係は最悪だといわれています。しかし韓国と日本には隣国ならではの長い友好の歴史があるのです。

埼玉県に位置する高麗神社は、出世の神様として大変人気がありますが、その起源は昔、朝鮮北部の高句麗の人々(高麗人)が開拓民として日本に移住したことに始まります。武蔵国に定住した高麗人1799人の中心人物、高麗王 若 光こまの じやっこうが同神社の主祭神となり、現宮司はその60代目*2になります。来年は高麗郡建郡から1300年を迎えますが、渡来人の移住は当時の日本の政治、産業、文化の向上に大きく貢献し、今日の両国民の絆の証となっています。

もうひとつ、日韓両国が平和な善隣友好時代を築いた例として、朝鮮通信使があります。豊臣秀吉の朝鮮出兵により冷え切った日本と朝鮮半島の関係改善のため、徳川家康が招聘した朝鮮通信使



日本語を学ぶメキシコ人留学生と交流



講演終了後、国際交流について歓談

は、現在のソウルから釜山、下関を通過、瀬戸内海から東京、時には日光まで、日本を横断し、行く先々で踊り、書道、詩など文化的な交流が行われました。現在でも通信使をテーマにした様々な交流事業の開催や、日韓共同で通信使のユネスコ記憶遺産登録を目指す活動も行われ、今日の日韓友好へと繋がっています。

人生は出会いで始まり、 友情は受け継がれる

当基金の事業の柱は青少年交流です。なぜ、青少年交流が重要かという、やはり感受性に富んだ若い時に、自分の目で見て、直接話し、肌で感じ、友情を育むことが重要だからです。交流した学生たちの感想を読みますと、「韓国に行く前と行った後では見方が大きく変わった」(日本)、韓国人の学生のなかには、「過去だけにこだわらず、お互いに足りない部分を補い合っていくべきだ」(韓国)といった、国と国の関係を超越した前向きな意見を聞くことができます。お互いの差を認め、さらに知り合おうとすることで、ものすごいパワーを発揮する。これは2歳の孫が大好きなアニメ『アンパンマン』の世界にも通じるものがあります。『アンパンマン』の世界観は異文化共存です。バイキンマンがいるからこそアンパンマンが輝く。お互いの違いを認め、協力し合うと、1+1>2になる、異文化交流こそがさらなる力を生み出すと私は信じています。

2001年に新大久保駅で誤ってホームから転落した見知らぬ日本人を助けようとして、線路に飛び込みかえらぬ人となった韓国人留学生、李秀賢イ スヒョンさんは生前「外国人として日本で暮らす中で一度ならず差別を経験したが、差別はどこ国にもある。大事なことは自分の目の前にいる人がどういう人なのか、ということだ」と語っていたそうです。現在日本語を学んでいる皆さんも日本という外国で暮らす中で孤独や寂しさ、時には差別を感じる時もあるかもしれませんが、そういう時こそ「1+1>2」を思い出し、自分自身を見つめ直すと同時に、自分の国の良さを再発見しながら日本の文化を理解することで、日本との架け橋となられるよう願っています。

*1 エルエスエイチアジア奨学会は、故李秀賢氏の勇気ある行為を長く顕彰すると同時に、母国と日本の架け橋になろうという志を抱いて日本語学校に学ぶアジア諸国からの語学留学生を、経済面で支援することを目的とする団体です。

*2 高麗家60代当主であり、高麗神社宮司の高麗文康さんに当基金講演会(6月16日(火))にてお話を伺いました。詳細は次号でご紹介します。

鳥取敬愛高等学校での高校生交流 ～韓国青年訪日研修団を迎えて～

鳥取敬愛高等学校キャリア教育部長 西井肇

きっかけは教員の訪韓

2014年の9月に私を含めた本校職員2名が、日韓文化交流基金の日本教員訪韓研修団の一員として韓国を訪れました。そこで「草の根の交流の大切さ」を実感しました。そして「本校の生徒たちに本当の韓国を知ってほしい」という思いから、本校で高校生交流を実施することになりました。

これまで、本校で外国の高校生を受け入れたことは何度かありましたが、茶道や華道の体験や交流会は行ったものの、通常の授業に外国の高校生を参加させたことはありませんでした。今回は日本語を勉強している生徒が多いこともあり、本校のすべての生徒に韓国の高校生と交流する機会を設けようと、金曜日の6限目の通常授業に4名ずつ参加してもらいました。授業は各教科担当が交流をメインとして実施し、生徒だけでなく先生方にとってもいい経験になりました。

本校生徒の変化

①本校生徒の感想文より

・正直なところ韓国の人に最初は先入観がありました。しかしこの交流によって印象が良い方向に変わったと思います。世界にはさまざまな人がいて、その中には自分たちと変わらない人や、想像より素敵な人々がいるのだと実感しました。(2年生)

・ホームステイに来てくれた2人の韓国の高校生と、お寿司を食べたり、そば打ちをしたり、アイドルの話をするととても楽しい3日間でした。私の知らない韓国のことを知ることができたり、事前に勉強していた韓国語を生かすことができ本当に良かったです。(2年生)

・敬愛高校に来てくれた韓国のみなさんはとても日本語が上手で、かっこいいなあと思いました。外国の方々と交流できてよかったと思います。このような機会があればぜひ参加したいです。(1年生)



英語の授業でグループワーク



韓国青年訪日研修団の参加者と本校生徒の集合写真

交流の概要

2月6日(金)～2月9日(月)

1日目：学校交流(歓迎式・授業体験*・交流会・ホストファミリー対面式)

2日目・3日目：ホームステイ(18家庭)

4日目：企業見学(リコージャパン)

訪日団構成：高校生34名、引率2名、通訳2名、基金職員1名 計39名

*授業体験

韓国の高校生は4～5名のグループで1・2年生の授業(生物・英語・現社・数学・茶道・華道・BU(学校設定科目))に参加。

②交流の輪の拡大

帰国した韓国のある高校生から、本校の生徒宛に1通のメールが届きました。「SNSを使っていろいろな国の学生たちのコミュニティーを作って、サミットを開いたり、ブックレビューを交換したりしたい」という内容のメールでした。すぐに学校全体にこの取り組みが広がり、本校の3年生の英語の授業で、自己紹介文を作ったり、本の紹介文を作ったりする活動が始まり、どんどん交流の輪が拡大していています。

一歩踏み出す勇気

本校ではグローバル人材の育成を学校目標の一つに掲げ、あらゆる機会に生徒の国際性を高める実践を行っています。しかし、同世代の外国の高校生と直接交流したり、現地を訪問して自分の肌で感じたりすること以上に、有効な教育実践はありません。多くの生徒や職員、保護者が勇気をもって一歩踏み出し、新しい出会いに挑戦できたことは何よりも貴重な宝物になったと思います。

PROFILE



にし い はじめ
西井 肇

鳥取敬愛高等学校キャリア教育部長。進路・人権・国際理解を統合したキャリア教育部長に2013年に就任。モットーは「責難は成事あらず」。鳥取敬愛高等学校は、今年創立110年を迎える歴史ある私立高校。各学年4クラスの小さな学校であるが、グローバル人材の育成を教育目標に掲げ、地域に信頼される学校づくりに励んでいる。

日本大学生訪韓研修団参加者が 「国際交流に関するエッセイコンテスト」で優秀賞を受賞しました

日本大学生訪韓研修団（韓国外交部招聘、2014/9/10～9/19）に参加した、同志社大学の真本大生さんが、同学校法人主催の第19回国際交流に関するエッセイコンテストで優秀賞を受賞しました。今回は受賞した『百検索は一見にしかず～日本政府青少年交流事業 JENESYS2.0 に参加して～』と題したエッセイの一部をご紹介します。

人生には数多くの節目が存在する。それは、自分の過去と未来をつなぐ結節点であり、時には自分の将来の方向性をも規定しうる、莫大なエネルギーを放つ。

私は2014年の夏に、人生で最大の節目に遭遇した。日本政府の青少年交流事業 JENESYS2.0 の基幹事業の一つである、日本大学生訪韓研修団（韓国外交部招聘）に選出されたのである。日本全国から選ばれた28人の大学生が、10日間の日程で韓国に滞在し、ホームステイや文化体験を通して、相互理解を深めることを目的としたプログラムである。

訪韓研修では、10日間の日程が組まれていた。初日は、東京で事前説明と日韓関係に関するレクチャーがあり、2日目に羽田を飛び立ちソウルに向かった。ソウルでは一週間研修を行い、その後は王朝時代の古墳群が今でも残る慶州に一日、さらには国際映画祭の開催を前に熱気あふれる港町、釜山に一日滞在した。



滞在先のコリアナホテルの玄関には、訪韓団を歓迎する横断幕が掲げられていました。（左から3番目が筆者）

今回の訪韓プログラムの中で中心となるプログラムが、「日韓交流おまつり」である。このイベントは日韓政府共同開催による国際交流フェスティバルで、2004年に日韓国交正常化40周年を記念して始まり、今年で10周年を迎える行事である。日本と韓国、それぞれの国から自国の文化や伝統を紹介するブースが出展され、会場中央に設置されたステージでは、毎年日韓で話題となった著名人がコンサートやトークショーを行うことが恒例となっている。

日韓交流の最前線ともいえるこのイベントの、記念すべき10周年の年に、訪韓研修団のメンバー全員で協力してブースを出展した。ブースの出展テーマは食文化にからめて「日本の食卓」



日韓交流おまつり。着物や浴衣を着て、日本の食文化を発信しました。（一番左が筆者）

に設定し、日本の一般家庭で伝統的に食べられてきた食事と、家族で食卓を囲んで作り合った折り紙の文化について、実演を交えて紹介した。今回は特に、日本の国技である相撲についても紹介した。折り紙の実演では相撲の力士を作成し、参加者にはとんとん相撲をして遊んでもらった。結果的には、自分たちの予想をはるかに超える方に参加していただき、対象と考えていた子どもたちよりも、大人の参加者の方がとんとん相撲遊びに白熱している様子も見られ、年代に関係なく楽しんでもらえたことに大きな喜びを感じた。

こうして、訪韓研修団に選出された日からみんなで2か月ほど必死に準備してきた交流おまつりのブースは幕を閉じた。終了したときには、無事に終わったことに関する安堵の気持ちと、とんとん相撲などの遊びを通じた国際交流にはまだまだ可能性があると感じ、未来への希望の気持ちで頭の中は満ち溢れていた。

訪韓研修団への参加を通して、韓国の多種多様な側面を目の当たりにした。ホームステイでは、韓国の家庭の温かいおもてなしを受け、人情味あふれる韓国人の一面を垣間見ることができた。交流おまつりでは、日韓の民間外交の最前線で日本文化を紹介するチャンスをいただき、普段研鑽している政治学という学問への応用について考える機会となった。

ネットで容易に検索できる世の中になったからこそ、実際の自分の目で見て、人と会って、直接話をすることが重要である。常識と言われていることを常に疑い、本当のところはどうかを考え、自分の目で確かめようとする気概を持つことが、私たちには求められている。その時に欠かせないのが、人との交流である。人と人の心の触れ合いが双方の誤解や認識のずれをなくし、今よりもより良い世界を創っていくきっかけとなる。交流こそが良き未来を創る鍵であると確信している。



エッセイコンテスト授賞式。

PROFILE



ま もと だい き 真本大生

同志社大学法学部在籍。大学では政治学を専攻し、世界的に通用する人物を目指して、国際交流活動を積極的に行う。大学近隣の住民の方と留学生をつなげるイベント「京田辺サミット」を1年生の時に企画し、自らも実行委員として活動。

2015 年度 訪日・訪韓フェローシップ採用者決定

2015 年度訪日・訪韓研究支援(フェローシップ)の採用者が決定しました。

訪日 30 名、訪韓 8 名の応募があり、このうち訪日フェローは 15 名、訪韓フェローは 6 名が採用されました。

訪日フェロー

氏名	所属機関	職位	研究テーマ	受入機関
金奈永	済州大学校人文学部史学科	博士課程修了	15～19 世紀 日韓漂流民と文化交流	京都大学大学院文学研究科
金東明	国民大学校社会科学部政治外交学科	教授	北海道の文化政策	北海道大学大学院文学研究科
金寶香	済州大学校在日済州人センター	特別研究員	言語接触と言語変化： 在日済州人一世の言語を中心に	立命館大学コリア研究センター
金碩顯	東京大学大学院工学系研究科	博士課程修了	梁架構から見た日本と韓国における 詰組系建築の系統と特質	東京大学大学院工学系研究科
金英	大邱韓医大学校グローバル経営学部日本語学科	副教授	日本香道の発達とその経済・文化的 価値及び効果に関する研究	中京大学大学院経営学研究科
南基鶴	翰林大学校人文学部日本文学科	教授	鎌倉幕府の「武威」についての一考察	京都大学大学院文学研究科
馬定延	東京藝術大学大学院映像研究科 / 国立新美術館	非常勤講師 / 客員研究員	メディア芸術における日韓文化政策 の比較研究	東京藝術大学大学院映像研究科
朴美賢	釜山大学校日本研究所	研究員	日本書紀関連文獻における韓国系固 有名詞のアクセントの研究	大阪大学大学院文学研究科
裴貴得	立命館大学コリア研究センター	客員研究員	近代帝国日本におけるキリスト教団の「満 州布教」に関する研究 -1930 年代の 日・朝教団による宣教活動を中心に-	立命館大学文学部
孫イレ	ミシガン大学アジア言語文化学部	博士課程修了	時間というアポリア -「植民地映画」 または帝国日本の映画の臨界点に関 する歴史的研究	明治学院大学言語文化研究所
沈永煥	韓国学中央研究院	蔵書閣研究室 責任研究員	高麗文書と日本養老令文書との比較 を通じた東アジア古代・中世統治シ ステムの比較分析	東京大学大学院人文社会系研 究科
尹汝一	ソウル大学校社会学科	博士後課程	1930-40 年代日本と朝鮮の「時間 / 空間」論に関する比較研究	同志社大学グローバルスタ ディーズ研究科
鄭恵英	大邱大学校基礎教育院	招聘教授	植民地期西洋探偵小説で発見される 二重翻訳の意味	慶應義塾大学文学研究科
曹恩愛	東国大学校大学院国語国文学科	博士課程修了	第 1-7 次日韓会談の展開過程におけ る在朝日本人・在日朝鮮人に関する 記憶と表象の文化政治学	東京大学大学院総合文化研究科
咸忠範	高麗大学校日本研究センター	研究教授	日本における朝鮮トーキー映画の配給 過程と上映様相 (1935 ～ 1945)	名古屋大学大学院文学研究科

訪韓フェロー

氏名	所属機関	職位	研究テーマ	受入機関
上山由里香	成均館大学校東アジア学術院	博士課程修了	韓国における国史教育状況把握のための 研究 - 1945 年以降 50 年代半ばまでの 国史教科書及び実践記録を通じて -	成均館大学校東アジア学術院
カレイラ松崎順子	東京経済大学現代法学部	准教授	韓国における英語の教育課程の変遷 - 日本の学習指導要綱と比較して -	淑明女子大学校英語英文学部
新里喜宣	ソウル大学校人文学部宗教学科	博士課程修了	巫俗言説の形成過程と巫俗の変容に 関する研究 - セマウル運動および民 主化運動の時期を中心に -	ソウル大学校人文学部宗教学科
武田淳	麗澤大学外国語学部	助教	韓流ブームと日韓国際結婚	培材大学校社会学部公共行政 学科
松坂裕晃	ミシガン大学歴史学部	博士課程	植民地解放運動のグローバルな連関 と境界線 - 植民地期朝鮮の社会・思 想・文化運動の環太平洋的展開と民 族・人種問題	延世大学校国学研究院
湯山篤	ソウル大学校社会科学部社会福祉学科	博士課程修了	日本と韓国の就労支援についての比較研究: 社会保障と雇用の連携の形を足がかりに	ソウル大学校社会福祉研究所

日本における「海女観光」の現状

海に潜り海産物を採る人々は世界中に存在するが、生計維持のために職業として潜る海女は日本と韓国のみである。海女は主として、アワビ、サザエなどの貝類や海産物、テングサ、エゴノリ、ワカメ、コンブなどの海藻類を採取する。日本では潜水によって海中の魚貝類、海藻類をとる漁業者のことで、一般に女に「海女」、男に「海士」という字をあてる。日本で潜水漁業の存在は相当古くから認められており、『古事記』、『日本書紀』、『風土記』、『万葉集』などの文献においては、海人・海部・蟹・白水郎などの文字で記されている。

現在の海女の分布は多くの地方にまたがっているが、太平洋岸の岩手、千葉、静岡、三重、徳島、および日本海側の新潟、石川、福井、長崎の諸県に多くみられ、海女の浦と海士の浦とが混在している。大きくいて千葉、三重、長崎の各県を結ぶ線の北側では海女が多く、南側では海士が多い。鹿児島、奄美(あまみ)、沖縄と南にいくにつれて海女はまったくみられなくなっている。海の博物館(三重県、2010)の調査によると、日本全国の18道県で2,200人の海女が活躍している。最も海女の数が多い県は、三重県(973人)、その後石川県(197人)、千葉県(158人)の順である。

本稿で扱う「海女観光」とは、海女を観光資源とし、観光客が文化体験や観賞などの観光活動ができることを称する。日本の「海女観光」は、海女漁の実態と地方の特徴によって、「海女小屋体験」と「海女漁の実演」、また、海女関連お祭りや海女体験がある。ここでは、日本の「海女観光」の実態を報告することにする。

1) 鳥羽・志摩地域の「海女小屋体験」

昔から海女が多く分布し活躍している地域として、鳥羽・志摩地域がある。今でも1,000人近くの海女が海女漁を営んでいる。この地域には古くから海女漁を行う祭に、白い磯着を着ていたのので、今でもウェットスーツの上に、白い服をきて海女漁を行っているが、お祭りなどの海女行事には白い磯着と巻きスカートを着る。

海女小屋とは、素潜り漁に従事する期間に使用する仮設の小屋である。ヒバ、カマドと呼称されており、この地域では、観光用の「海女小屋」を運営している。実際の海女小屋は、海女漁の後に冷えた身体を温める休憩室のことであるが、観光用の「海女小屋」では、海女さんに海の話聞きながら、海女達が獲った魚介類を食べることができる場所になっている。



観光用海女小屋

相模地区は鳥羽・志摩地域の中でも海女の数が一番多いところであり、2005年から国の補助事業を活用し、海女をテーマにした事業を推進している。2006年

＜表1＞鳥羽・志摩地域の代表的な観光用海女小屋の実態

地域	運営・経営主体	名称
鳥羽	相模	鳥羽観光協会
		鳥羽観光協会
		個人
	答志島	島の旅社
志摩	越賀	志摩観光協会
	御座	個人

10月相模かまどが、2007年4月海女文化資料館がオープンしてから、同地を訪問する観光客は毎年増え、2012年には月平均1,580名が訪問した。

また、答志島の「島の旅社」*1によって運営されている「海女小屋」の場合、2004年「路地裏散策や海女小屋体験」のモニターツアーをはじめ、年間500～600人の観光客が訪れる。その他海女小屋体験、浮島水族館などの各種体験メニューの取り組みにより、毎年1,300人以上が参加し、交流人口の増加や島への経済効果が生まれている。



町を散策する観光客



観光客と歓談する海女たち(夕食後)

2) ミキモト真珠博物館での「海女漁の実演」

ミキモト真珠島は、御木本幸吉が1893年世界で初めて真珠の養殖を成功させた島である。1928年、「真珠ヶ島」と命名し、真珠参考館*2をつくり、海岸近くには養殖イカダを浮かべるなど観覧用施設を整えた。その当時から海女の実演を見せ、真珠貝の生態を紹介した。やがて戦争が激しくなり、やむ得なく島は閉鎖され、海軍の基地として終戦を迎えた。

1951年3月、ミキモト真珠島を再公開し、国内はもとより、海外からも多くの観光客を迎え入れることになった。＜自然と科学の行楽地＞というキャッチフレーズで、海女の作業やネックレスができるまでの養殖真珠に関するすべての工程を公開した。入場料は30円、開島早々から鳥羽の新名所として人気をよび、来島者は初年度だけで23万人を記録し、1955年には60万人を突破した。

開島当時から白い磯着姿で海女が海に潜る「海女の作業」は大変な人気だったが、当初は護岸から身を乗り出すようにして、海の中を覗かねばならなかった。そこで、より多くの人が快適に見学できるようにと、鉄筋コンクリート2階建ての施設「海女スタンド」が1961年3月、新築された。そして、ミキモト真珠島は1973年には年間訪問客が100万人を越えるようになった。

1985年9月1日、御木本幸吉が人類歴史上初めて真珠養殖に成功した百周年記念事業の一環として「真珠博物館」が建てられ、1975年には2,000万人、1992年にはついに4,000万人目の来島者を迎えた。

ミキモト真珠博物館では「海女漁の実演」として、3人の白い磯着姿の海女により海女実演が行われる。同博物館での「海女」は、「海女実演」以外に、訪問者の誘導・案内係りを行い、訪問者たちの写真のモデルにもなってくれる。



真珠博物館オープン(1985)



実演する海女

3) 岩手県久慈市小袖地区の「海女漁の実演」

岩手県久慈市小袖地区の海女を舞台に、1959年、ラジオドラマ「北限の海女(水木洋子作)」が放送されてから、この地域の海女は「北限の海女」と称されるようになり、注目を浴びるようになった。

その後、2011年東北大地震の津波の影響で、久慈も大きな被害を受け、東北地域を元気づけようとする企画として2013年4月からのNHKの朝の連続ドラマ、「あまちゃん」は生まれた。震災の1年後から、海には魚介類が戻ってきている様子で、小袖地域の海女さんは昔からの潜水業である海女漁をやっており、「海女センター」で観光客を迎えている。「あまちゃん」ドラマの影響で、多くの観光客が小袖を訪ねてくるようになったようだ。



海女センター(2013年当時)

小袖地域では「海女漁の実演」として約20名のベテラン海女の「ウニ素潜り実演」がある。7月から9月までのシーズンは、ウェットスーツではなく、「かすりはんてんと白いパンツ」で行われる海女漁実演を見て、取れたてのウニの試食まででき、2013年7～8月には、前年同期の約23倍となる7万5,700人が小袖海岸を訪れたという。また、地震の際、流失された「海女センター」は再建されるが、ここでは鉄筋コンクリート造りの3階建てで、1階が海産物直売所と観光案内所、2階は海女文化の展示スペースと休憩室、3階は軽食コーナーを新設し元海女さんたちが料理する久慈地域の名物が味わえる(朝日新聞、2015年4月25日)。

また、久慈市観光物産協会が「北限の海女」の後継者育成をかねて、2005年、地元高校生を対象とし「海女クラブ」を設立した。海女クラブのメンバーは夏休みを中心に、本物の海女さんから素潜りを教わったり、イベントを手伝って久慈市を広報している。2013年は14人が高校生海女クラブのメンバーになった。

NHK朝の連続テレビ小説「あまちゃん」の初回から最終回までの平均視聴率は20.6%で、高い視聴率で終了した。このようなあまちゃんの効果として、2013年は、前年の23倍の観光客が訪れたと岩手県では報告している。

特に、あまちゃんの経済効果が期待されるのは、関連商品ばかりではない。「あまちゃん」の舞台となった岩手県では、地元を掘り下げ地域の価値を高め、それが口コミなどで広がることで、地域にやってくる人を増やし、地域の振興につなげていく取り組みを整えている。

4) その他の「海女観光」の事例

鳥羽・志摩地域における海女関連のお祭として、しろんご祭(菅島、鳥羽市、7月11日)、潜き下り(石鏡、鳥羽市、2月16日)などが、各地域で実施されている。



しろんご祭り(菅島)

これらのお祭りを通じ、海女漁及び海女文化を普及させて地域への理解を深めている。

一方「海女観光」には、マスコミの影響力が大きい。久慈の海女関連土産商品は、小袖屋の海女の磯汁(1988年から)、ご当地キューピー(2006年から)などがある。2013年4月からNHKの朝のドラマ「あまちゃん」が放映されてからは、三陸鉄道関連商品をはじめ様々なあまちゃん商品も発売されている。

久慈市小袖地域は、朝の連続ドラマ「あまちゃん」の影響で、北限の海女地域として注目を浴びるようになった。三重県の場合、3世代海女、中川さん母娘は鳥羽市の観光キャンペーンガールとして活躍しており、日々を忙しく過ごす「観光海女」とも言われる。

今後、海女漁文化のユネスコ無形文化遺産登録を目指して日韓両国が力を合わせ、「海女観光」がサステナブル・ツーリズムの対象として管理されていくことを期待している。

*1 鳥羽の離島の魅力や、ありのままの島の生活を、訪れた方に体験してほしいという思いで、島の人々の手で「島の旅」をプロデュースする取り組み。2005年鳥羽市戦略プランとして承認され、2006年度から答志島をモデルケースとし各種事業に取り組んできた。

*2 開島当時、真珠島の残橋と鳥羽側開岸壁を渡船が結び、渡船料は往復で10円だった。

2015 年度 助成対象事業決定

2015年度助成対象事業には105件の申請があり、この中から60件への助成が決定されました。

助成対象事業一覧(実施日時順)

事業名	申請団体	実施期間	場所
「食」文化デザインDNA養成プロジェクト	京都造形芸術大学	2015/4/1-2016/2/29	京都造形芸術大学、 韓国総合芸術学校ほか
「朝鮮通信使と長崎」セミナー in 釜山	長崎県	2015/4/1-2016/3/31	釜山市
日韓交流公演 韓国国立国楽院 65 周年 日韓国交正常化 50 年記念	公益財団法人 日本民謡協会 西日本地区委員会	2015/4/13-2015/4/15	韓国国立国楽院ホール
日韓国交正常化 50 年をめぐる オピニオンリーダー会議	認定 NPO 法人 言論 NPO	2015/5	ソウル市
第 7 回日韓親善ピアノ交流演奏会 (宮崎・済州交流演奏会)	日韓親善コンサート実行委員会	2015/5/20-2015/5/24	済州大学校コンサートホール
日韓国交 50 周年記念「末盧と百済の絆再び…」	まつろ・百済武寧王国際ネットワーク協議会	2015/6/6-2015/6/7	佐賀・高齢者福祉会館りふれホール ほか
日韓障がい者音楽コンテスト 相互出場と交流	NPO 法人 日本バリアフリー協会	2015/6/12-2015/6/16 2015/10/11-2015/10/14	ソウル市庁、江南総合社会福祉館、 東京国際フォーラムほか
学術交流協定締結 2 周年記念国際シンポジウム 「マイノリティと人種」	済州大学校在日済州人センター	2015/6/19	済州大学校文化交流館(博物館 2 階)
2015 日韓国交正常化 50 年記念「日韓(忠清 南道・熊本県)伝統音楽協演の夕べ」	日韓伝統音楽交流事業実行委員会	2015/6/24-2015/6/28	熊本市市民会館崇城大学ホール
福岡/釜山 劇団・作品交流 HANARO project vol.2	福岡・釜山交流ひろば	2015/7/14-2015/7/27	福岡・ぼんプラザホール、 釜山・チョンチュンナビアートホール
日韓国交正常化 50 周年記念・韓国切手展	日韓国交正常化 50 周年記念・ 韓国切手展実行委員会	2015/7/17-2015/7/19	東京・すみだ産業会館 8 階
第 6 回済州・日本 神話交流展 —神話の記憶を辿る—	日本・済州 神話交流会	2015/7/22-2015/7/27	済州道・文芸会館
日韓子ども国際交流体験 2015	日韓子ども国際交流体験実行委員会	2015/7/24-2015/7/27 2015/10/10-2015/10/13	釜山市・南門初等学校、長崎市、 諫早市
FICS 東京大学・ソウル大学校間学生交流事業 東京セッション	FICS Tokyo	2015/8/3-2015/8/7	東京大学駒場キャンパス、 本郷キャンパスほか
日韓誠信学生通信使 2015 ～共生と平和の未来へ	早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセ ンター	2015/8/4-2015/8/7	広島市、福山市
第 31 回日韓学生フォーラム	第 31 回日韓学生フォーラム実行委員会	2015/8/5-2015/8/20	長崎、大阪、東京
韓国「木浦共生園」との交流	社会福祉法人 県北報公会	2015/8/6-2015/8/10	秋田・児童養護施設 陽清学園
第 11 回広島・韓国青少年囲碁交流	広島県日韓親善協会	2015/8/7-2015/8/9	広島市
第 22 回一橋大学・ソウル国立大学フィールドホッ ケー交流戦	一橋大学フィールドホッケー部	2015/8/7-2015/8/10	一橋大学国立キャンパスおよび周辺
第 21 回山口・公州ジュニア交流隊	公益社団法人 山口青年会議所	2015/8/7-2015/8/10	山口市周辺
日韓のこばを学ぶ中高生交流プログラム 2015—SEOUL でダンス・ダンス・ダンス(ダンス・ ダンス・ダンス)	公益財団法人 国際文化フォーラム	2015/8/9-2015/8/14	ソウル市
韓国・珍島との交流事業	今治ユネスコ協会	2015/8/9-2015/8/15	今治市周辺
国際ビジネスコンテスト OVAL	学生のための国際ビジネスコンテスト OVAL 実行委員会	2015/8/12-2015/8/19	東京・国立オリンピック記念青少年総 合センター
第 30 回記念日韓経済経営国際学術会議	東アジア経済経営学会	2015/8/16-2015/8/20	金沢歌劇座、 金沢エクセルホテル東急
第 14 回東アジア国際シンポジウム	一般財団法人 東アジア総合研究所	2015/8/20-2015/8/23	ソウル市
日韓国交正常化 50 周年記念大学生サミット	東アジア学会	2015/8/23-2015/8/26	釜山外国語大学校
美しき青年 李秀賢(イ・スヒョン) モイム 2015 【アイモ 2015】	社団法人 釜山韓日文化交流協会	2015/8/23-2015/8/26	釜山市
朝鮮通信使ユネスコ記憶遺産登録日韓代表者・ 共同学術会議	NPO 法人 朝鮮通信使縁地連絡協議会	2015/8/24	下関市
日韓国交正常化 50 周年記念 音楽で手をつなご うコンサート～障がいのある仲間とともに～	音楽で手をつなごうプロジェクト 日韓コンサート実行委員会	2015/8/25-2015/8/29	在大韓民国日本国大使館公報文化院 ほか
2015 年特別展「韓日食博」におけるカリグラ フィー・ワークショップ	国立民族学博物館	2015/8/26-2015/11/10	国立民族学博物館
地産地消と身土不二 ～農村からの持続可能な 親環境的ライフスタイルの提案～	NPO 法人 日韓(韓日)農業・農村文化 研究所	2015/8/27-2015/8/30	全羅南道靈岩郡
日韓国交正常化 50 周年記念 オペラ「ザ・ラス トクイーン」	「ザ・ラストクイーン」実行委員会	2015/9/1-2015/9/30	新国立劇場「中劇場」

事業名	申請団体	実施期間	場所
日韓修交 50 周年記念 「第 8 回日韓伝統舞踊フェスティバル「流」」	株式会社 A Tower	2015/9/4	渋谷区文化総合センター大和田・伝承ホール
日韓国交正常化 50 周年記念 「日韓大学生が切り拓く未来の日韓関係」	日韓国交正常化 50 周年記念「日韓大学生が切り拓く未来の日韓関係」実行委員会	2015/9/6	福岡市
韓国スタディツアーおよび韓国大学生との国際交流会（漢陽大学・世明大学生との国際交流会）	立命館大学産業社会学部韓国社会文化研究会	2015/9/14-2015/9/21	ソウル市、京畿道、忠清北道
障害者同士の福祉レクリエーション交流事業	NPO 法人 車椅子レクダンス普及会	2015/9/18-2015/9/20	長野・泰阜村総合体育館
日韓交流おまつり 2015 in ソウル 日本航空高等学校太鼓隊派遣事業	日本航空高等学校 太鼓隊	2015/9/18-2015/9/21	ソウル・COEX「ホール B」
「日韓交流おまつり 2015 in Seoul」はなごりあ —日韓交流演舞—	はなごりあ	2015/9/18-2015/9/21	ソウル市
日韓交流おまつり 2015 in ソウル 大道芸 W 杯 2014 JAPAN CUP 優勝チーム派遣事業	大道芸ワールドカップ実行委員会	2015/9/18-2015/9/21	ソウル・COEX「ホール B」
「日韓交流おまつり 2015 in Seoul」への津軽 手踊り出演	青森空港国際化促進協議会	2015/9/19-2015/9/20	ソウル・COEX 展示場
国際平和映像祭への韓国の学生の招聘と 作品参加	一般社団法人 国際平和映像祭	2015/9/19-2015/9/22	日本大学芸術学部映像学科、国立近代美術館フィルムセンターほか
韓国民話公演と日本語を学ぶ韓国小学生交流	平間わんぱく少年団	2015/9/19-2015/9/22	済州
「21 世紀の日本通信使～囲碁で信（まこと）を 通わせよう」	NPO 法人 暮らしと耐震協議会	2015/9/19-2015/10/19	韓国
GO!2018 総文祭プロジェクト 国際交流部門 「日韓アートアカデミー」	長野県教育委員会	2015/9/20-2015/9/25 2015/10/25-2015/10/30	長野市、松本市、ソウル市、京畿道
韓国に残る日本人町保存に向けた日韓ひと・文化 交流	一般社団法人 日本家屋保存日韓推進協会 日本人町研究会	2015/9/20-2015/9/30	群山市、ソウル市、大阪市
「李方子の人生とそれが今に問いかけるもの」	「和」の会	2015/9/26-2015/10/5	東京・角筈区民ホール、 京畿道・明暉園、慶州市・ナザレ園
日韓文化交流のタベ 「金利恵 韓舞と俳句 おき 合（スム） む（モツ）」	株式会社 青い鳥創業	2015/9/30-2015/10/5	東京・古民家ギャラリー ゆうど
【日韓国交正常化 50 周年記念事業】 日韓陶磁器 縁を辿る展示会 in 釜山	NPO 法人 心を伝える会	2015/10/14-2015/10/18	釜山・ロッテ免税店
第 16 回日韓学生シンポジウム	東北大学大学院環境科学研究科川田研究室	2015/10/26-2015/10/30	東北大学片平キャンパス
海女サミット 2015 in 鳥羽	海女サミット実行委員会	2015/11/6-2015/11/7	鳥羽商工会議所「かもめホール」、 筈志コミュニティアリーナ
釜山・対馬韓日舞踊交流会 “お母さまたちの疎通、世の中を抱く”	舞空間 オルム舞踊団 韓日舞踊交流実行委員会	2015/11/7-2015/11/8	釜山市民会館、 国立釜山国楽院演奏堂
日韓文化交流演奏会 (日韓文化交流青少年育成事業)	市民吹奏楽団おたまじゃくし	2015/11/21-2015/11/22	東京・大田区民ホールアブリコ「大ホール」
シアター ZOO 企画公演【Re:z】プロジェクト・ アイランド「アイランドー監獄島」札幌公演&ワーク ショップ	公益財団法人 北海道演劇財団	2015/11/27-2015/12/4	札幌・扇谷記念スタジオ・シアター ZOO
トーキョー×ソウル デュオダンス・フェスティバル 2015	トーキョー×ソウル デュオダンス・フェス ティバル推進委員会	2015/12/8-2015/12/14	東京・セッションハウス
第 1 回奚琴演奏会	第 1 回奚琴演奏会実行委員会	2015/12/10-2015/12/14	大阪市・ザ・フェニックスホール
日韓こども湿地交流～ COP10 がつなぐ夢飛翔～ —湿地の異文化交流による ESD の実践—	NPO 法人 藤前干潟を守る会	2015/12/25-2015/12/28	昌原市・注南貯水池、牛浦沼ほか
日本・韓国 ダンス交流 (Exchange) プロ ジェクト Yokohama Dance Collection × Seoul Dance Collection “Dance Connection”	公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団	2016/1 月中旬 - 2016/2 月中旬	神奈川・象の鼻テラス、青森・八戸ポー タルミュージアムはっち
福岡ダンスフリンジフェスティバル vol.9	NPO 法人 コデックス	2016/2/2-2016/2/7	福岡・ぼんブラザホール、 konya2023、 パピオビールーム（予定）
日韓大学生共同オペラ公演3ヶ年プロジェクトI 「モーツァルトの愛のお話（仮称）」 (コンサート形式)	学校法人東成学園 昭和音楽大学	2016/2/11-2016/2/14 2016/3/5-2016/3/7	ソウル市立大学校、 川崎市・昭和音楽大学
日韓国交回復 50 周年記念 「日韓伝統の響き in 大分」	「おおいた日韓友好祭」実行委員会	2016/2/14	ホルトホール大分・市民ホール

時空を超えて—釜山芸術団歓迎交流公演

おおいた日韓友好祭実行委員会事務局長 是永幹夫

1. 誠信交流、 そして韓国との友好都市をめざして

16世紀の日本人僧侶が著した「朝鮮日々記」という告白録がある。秀吉の朝鮮出兵の際に豊後・臼杵の城主に随行して医者兼僧侶で1年間従軍した慶念の魂の日記だ。この日記分析を卒論でまとめた私は、劇団わらび座時代に、ジェームス三木さんの脚本・演出で朝鮮通信使の歴史的真相をもとに描いたミュージカル「つばめ」を制作した。2年間の国内巡回公演では朝鮮通信使縁地連絡会の全面的支援をいただいた。

このミュージカルが「日韓国民交流年」記念・韓国国立劇場招待事業でソウル・光州・釜山で上演できたことは、幾度も実施した韓国との舞台芸術交流のなかでも白眉の交流事業であったし、韓国を訪ねるなかで、「誠信の交わり」とことん学んだ。

その後、ふるさと大分市に帰郷して全国随一の複合文化交流施設「ホルトホール大分」の運営に携わるなかで、東北よりもより韓国に近い九州に戻り、韓国との交流を何らかのかたちで始めたいと、有志で「おおいた日韓友好祭実行委員会」を立ち上げた。大分県と大分市の日韓親善協会会長の橋本均氏(水族館「うみたまご」社長)が会長に就任され、20年前に韓国から大分市に移り住み、自力で日韓交流活動をしている印成銀氏も、パートナーとして一緒に動いてくれている。

2. 釜山芸術団を迎えて—伝統芸能交流

大分市は中国の武漢市とは35年間の友好都市交流を熱心に行っているが、韓国との都市間交流はまだない。武漢市よりもはるかに近い韓国の都市との交流をめざして、文化芸術での交流を、ホルトホール大分を会場に企画し、劇団わらび座時代にパートナーシップで相互交流を続けていた「釜山韓日文化交流協会」の河淑警事務局長にご連絡し、「釜山芸術団」の伝統楽器・伝統舞踊の10名の皆様を大分市にお招きした。行政主導での友好都市づくりではなく、民間交流を続けるなかで、いずれは友好都市に結びつい

ていけばとの思いで始めた。

サムルノリと伝統舞踊を務めた釜山芸術団の皆様は大分市での交流公演は初めてだった。河淑警事務局長に通訳を兼ねて随行していただき、旧交を温めた。大分市の岡倉子ども神楽保存会と立命館アジア太平洋大学の韓国からの留学生と日本人学生のサムルノリチーム「シンミョン」も歓迎公演をおこない、日韓両国の伝統芸能が織りなすステージは「近くて近い国・韓国」を肌身を感じる瞬間だった。

釜山芸術団のサムルノリチームの白熱の演舞は、数多くのサムルノリを韓国・香港・日本で観てきた私にとっても、格別の内容だった。「四物遊撃」というだけあって、醸し出される怒涛のリズムの音楽が、中空に渦巻きを創る瞬間を観た。会場に舞っているこの音楽は、日韓の絆・日韓の未来を示しているのではないかと感涙した。

また、ホルトホール大分では、韓国語講座や韓国料理教室も毎年開催している。韓国から留学している学生たちは、地元のご婦人たちとキンパブやチヂミなど、韓国の美味しいおつまみをホルトホール大分のキッチンスタジオで作り、出来たてを会場に持ち込んでくれた。地元の韓国料理店や日本酒の会社が寄贈してくれたマッコリや日本酒や焼酎も楽しみ、歓談はいつまでも続いた。

3. 時空を超えて!

「近くて遠い国」韓国は、いつでも「近くて近い国」になる。そうできるかどうかは、私たち自身の心根ひとつだと思う。「ワッタ・ガッタ」(왔다 갔다: 行き来する)の関係を、継続的につくっていきたいと思う。大分市と韓国の都市との友好都市実現を願いつつ!



韓国チヂミなどを楽しみながらの交流会の様子



釜山芸術団サムルノリチームによる演舞

PROFILE

これながみきお
是永幹夫

1946年、大分市生まれ。秋田に拠点を置く劇団「わらび座」の運営に長らく携わり、現在はおおいた日韓友好祭実行委員会事務局長を務める。2013年より複合文化総合施設「ホルトホール大分」の館長(統括責任者)。

日韓文化交流基金事業報告

本号では、2014年度第4四半期(2015年1月1日から3月31日まで)の実施事業を紹介します。

1 青少年交流事業

次代を担う日韓の青少年を対象に、相手国の社会の実情にふれ、人々との対話を行いながら相互理解を深めていくため、招へい・派遣プログラムを行っています。

訪日団

団体名	団長	計	男	女	期間	主な訪問先
韓国青年 (大学生第1団)	李鎮遠(イ・ジンウォン) ソウル市立大学校 国際関係学科 教授	37	11	26	1/14～ 1/23	亜細亜大学、大阪市立大学、鹿児島県日置市
韓国青年 (大学生第2団)	崔榮眞(チェ・ヨンジン) 済州漢拏大学校 ホテル調理科 教授	36	17	19	1/14～ 1/23	目白大学、関西大学、鹿児島県日置市
韓国青年 (大学生第3団)	魚秀禎(オ・スジョン) 啓明大学校教育大学院 助教授	36	19	17	1/14～ 1/23	大東文化大学、熊本県立大学、鹿児島県日置市
韓国青年 (中高生第1団)	鄭基梔(チョン・ギワン) 光州東成中学校 教師	36	11	25	2/3～ 2/12	鳥取敬愛高等学校、兵庫県立加古川南高等学校、鳥取県鳥取市
韓国青年 (中高生第2団)	蔣春姫(チャン・チュンヒ) 新道林中学校 教師	38	18	20	2/3～ 2/12	明治学院中学校東村山高等学校、兵庫県立芦屋高等学校、兵庫県尼崎市
韓国青年 (中高生第3団)	金孝淑(キム・ヒョスク) 新亭女子商業高校 教師	36	11	25	2/3～ 2/12	関東国際高等学校、愛媛大学附属高等学校、愛媛県松山市



茶道お点前体験
(韓国青年訪日研修団 大学生第1団)



寿司作り体験
(韓国青年訪日研修団 大学生第2団)



ホームステイ対面式
(韓国青年訪日研修団 中高生第3団)



兵庫県立加古川南高等学校訪問
(韓国青年訪日研修団 中高生第1団)



能楽体験
(韓国青年訪日研修団 中高生第1団)



和食作り体験
(韓国青年訪日研修団 中高生第2団)

訪韓団

団体名	団長	計	男	女	期間	主な訪問先
日本大学生 (第1団)	若生正和 大阪教育大学 国際センター 准教授	20	7	13	3/3～ 3/12	ソウル神学大学校、延世大学校
日本大学生 (第2団)	須賀井義教 近畿大学 総合社会学部 准教授	20	7	13	3/17～ 3/26	ソウル神学大学校、延世大学校



伝統弓体験
(日本大学生訪韓研修団第1団)



ソウル神学大学キャンパスツアー
(日本大学生訪韓研修団第2団)



伝統韓服体験
(日本大学生訪韓研修団第1団)

2 『世界史認識における‘アメリカ’の問題』

第14回日韓歴史家会議*報告書が2015年3月に刊行されました。

*この会議は、2001年に日韓両国の歴史研究者間の学問的な「交流の場」として発足し、日本史、韓国史のみならず、幅広い分野の歴史研究者が年1回の会議に参加し、最新の歴史研究の成果をもとに意見交換と討論を行っています。



2015年、春の旭日章受章

当基金にご縁のある鄭求宗(チョン・グジョン)日韓・韓日文化交流会議韓国側委員長/東西大学校日本研究センター所長が旭日中綬章、李盛大(イ・ソンデ)LSHアジア奨学会名誉会長が旭日双光章を受賞されました。

当基金役職員一同、心よりお祝い申し上げますとともに、今後のますますのご健勝をお祈りし、日韓交流の発展のため、ご活躍くださいますようお願い申し上げます。



旭日中綬章を受章された
鄭求宗(チョン・グジョン)
日韓・韓日文化交流会議韓国側委員長



旭日双光章を受賞された
李盛大(イ・ソンデ)
エルエスエイチアジア奨学会名誉会長

◆表紙の写真紹介「奥入瀬の春」(撮影: 鮫島章男)

若葉がようやく少し落着く色になりはじめている。水の音とはじきはじめる。鳥達の密やかな話し声も聞こえる。いい季節になった。

